
延命措置

S T A R ジョーカー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

延命措置

【著者名】

STAR ジョーカー

N3753C

【あらすじ】

宇宙船の事故で入院した俺は・・・そこで意外な人物に・・・

病室のなかは、静まりかえっている。

かすかな、機械の音以外音といつ音が遮断されている。

「延命措置をいかがしますか？」

機械的な質問だ、この質問を何度も聞いてきたことか、最初に聞いたのは何世紀前のことかもう忘れてしまった。

昔は医師の肉声だったが、最近は脳髄に接続された、ワイヤレス端子によつて信号として受け取るだけだ。

何世紀にもわたつて改造され、付け足された俺の体はいつたどここまでが、オリジナルなのかいや、オリジナルの人間など、この宇宙にどれだけ残つているとうのか？

レトロな機械人間のほうがましといつものだ。

「先生はオリジナルですか？」

俺は唐突に質問してみた。
しばらく反応はなかつた。

「その質問は法的に禁じられています。」

思つたとおりのガイドアナウンスだ。これまで何回聞いただらう。
わかつっていたはずなのに・・・ばかな質問をしてしまつた。

「延命措置をお願いします。」

何世紀にもわたってづづけてきた同じ信号を俺は送った……つ
もりだつた。

しかし以外なことが起きた。

「君は何年生きているのかね？」

俺の脳は混乱した。信号は混乱し、反響してひどい頭痛がした。
ありえない反応だつた。

「先生はオリジナルなのですか？」

「そうだ、こいつはやりとりは法律できんじられていて。しかわ
たしも疲れた、

君も多分そうなのだろう。」

「もういちど聞く、何年かね？」

「1万年を超えたあたりから、データを開く気にならなくて……

「そうか……若いな」

しばらくの間何も反応しなかつた。沈黙が流れた。

透明な壁のむこうには、衝突するふたつの銀河が美しくかがやいて
いる。

永遠をいきる者に言葉はそれほど重要ではない。

お互にわかりきつた者同士、ごく簡単なやりとりがつづいた

「君は何を理解したかね」

「宇宙のすべてを見て回りましたが、何も理解できませんでした。」

「さうか、私は君の10倍生きているが、最近ようやく理解できた。宇宙の果てまで行って

みたが、若いうちは理解できなかつた。」

「君と同じだよ、答えは・・わからん・・・ところひとつだ」

「そうですか、iji何世紀かそんな気がしてはいたのですが・・・

またしばらく沈黙が続いた。

無限に流れる時間のなかで、この医師は惑星ほどの大それのこの病院でひとりで勤務しているのだ。

訪れるものもほとんどなく100年に一人ぐらいだらう。

この様な病院が宇宙には無数に存在するが、たまたまこの病院に誘導されたのも

何かの縁かもしれない、めったにない宇宙船の事故に巻き込まれるという幸運のたまものだ。

オリジナルとの交信など夢のような話だ。

「どうするかね?」

「先生は、理解したのに、なぜ延命を・・・」

「じつは、延命措置に対する抗体を植え付けたばかりだ。このオリジナルが最後だ。

そうでなければ、こんな会話をするべくもなこだ。」

「わかりました、先生・・・お願ひします。」

「君も同じ気持ちというわけか・・・わかつた」

会話はそれで終わりだった。

しかるべき処置をして、俺は退院した。

それから・・・100年くらいの時間が流れた。

「先生、お久しぶりです。あのときはお世話になりました。」

「おおー君も来ていたのか？」

「どうだ？ 今の気分は・・・オリジナルのときと違つだろ？ 」

「はい！爽快です。肉体があれほどやつかいなものなりもつと早く
うすればよかつたです。」

「君のデータは完全だな、私は自分で処置をしたためにデータの一部が欠損したようだ。

もう医師としては、やれないが、いまさらオリジナルの補修など、

する気もないがね

「どうだ、外宇宙へ行ってみんか？面白い宇宙を見つけたぞ、そこはデータしかない宇宙だ」

「面白いですね」

我々の肉体としてのオリジナルは滅んだが、宇宙政府の管理下のもと、データとなってシステムのなかを行き来している。伝送され瞬時に外宇宙に飛ぶことも可能だ。

こんな面白い世界をひた隠しにするとは、宇宙政府も罪なものだもつともこれを公にすれば、物質世界を管理するものがいなくなるのだから無理ないことだ。

もつともたつたひとつだけ、失ったものがある、それは

「心」

だ。

データとしての感情はもつてているが、それは心と呼べるものではない。

宇宙船での孤独や、荒涼とした惑星での生活のみじめさ・・あの不思議な感情が心

だつたのだろうか？

もつとも心といつやつかいなもののおかげで、オリジナルはいくつ

の星間戦争といつ

無駄な行為を繰り返してきたのか？

物質と観念の狭間で揺れ動くのが、心といつものだと、データになつてはじめてわかつた。

えー、データの自分に飽きたらどうするかって？

それは単純なことだ、削除すればいい、そしてほんとうの意味で宇宙に帰るのだ。

ちなみに

この宇宙では

我々のような存在は

有機・あるいは無機の

ウイルスというカテゴリに属するらしい……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3753c/>

延命措置

2010年10月11日15時51分発行